

protecting the human  
rights living with HIV AIDS

AIDS WORKERS FUKUOKA



人権と共生を考える エイズ・ワーカーズ・福岡

HP <http://awfukuoka.net>

E-mail: awf@awfukuoka.net

TEL/FAX 092-715-4119 〒815-8619 福岡南郵便局私書箱 38 号

～ 目 次 ～

- ・ 2009 年度 エイズ・ワーカーズ・福岡活動報告・ホットライン集計 ..... 2P
- ・ N G O 指 導 者 研 修 ..... 3P
- ・ 電 話 相 談 に お け る 精 神 疾 患 の 基 礎 知 識 研 修 会 ..... 4P
- ・ 陽 性 者 支 援 に つ い て の 勉 強 会 報 告 ..... 5P

# エイズ・ワーカーズ・福岡活動報告

<2009年4月1日～2010年3月31日>

## 平成21年

4月11日 ミーティング  
 5月9日 サポート部会  
 5月23日 総会  
 6月4日 講演(筑後市筑後北中学校)  
 6月15日 講演(筑後市筑後中学校)  
 6月25日 講演(筑後市羽犬塚中学校)  
 7月10日 福岡HIVネットワーク参加  
 7月11日 ミーティング  
 8月8日 講演(福岡県教職員組合「両性の平等を  
 考える会」/ 額田町)  
 ミーティング、壮行会  
 8月9日 講演(福岡県教職員組合「両性の平等を  
 考える会」/ 朝倉市)  
 9月19日 ミーティング  
 9月24日 講演(照葉小、中学校)  
 9月26日 勉強会講師(西南学院大学サークル)  
 10月25日 ハートフルフェスタ福岡参加  
 11月6日 講演(大善寺小学校)  
 11月14日 講演(西南学院大学学園祭)

11月26日～ 日本エイズ学会参加  
 28日  
 12月4日 講演(直方第3中学校)  
 12月12日 講演会参加(日本性教育協会)  
 12月20日 講演(チャイルドライン)  
 12月26日 ミーティング

## 平成22年

2月14日 講演会(講師:日高先生)  
 2月21日 講演(サポチャイ)  
 2月23日 講演(三瀬中学校)  
 2月27日 ミーティング  
 2月27日～ エイズ予防財団主催ボランティア指導者  
 28日 研修会参加  
 3月7日 学習会(講師:岳中先生)  
 3月28日 学習会(講師:小楠先生)

## <2009年度電話相談・メール相談集計>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
日本語	77	77	81	77	63	71	65	45	59	61	47	61	784
英語	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
メール	18	17	12	9	4	5	1	5	3	10	7	3	94
留守電	4	5	5	2	6	2	7	1	9	7	2	4	54
無言	9	4	1	6	4	5	1	7	15	6	5	8	71

昨年度に引き続き、相談件数が増え続け、1994年度以降で最多の相談を受けました。HIVに感染したのではないかと不安になって、携帯サイトやインターネットのHIV検査・相談マップをみて、相談できる場所を探して架けている方が多いようです。

メールでの相談も昨年に引き続き多く寄せられています。時間の制約があったり言葉にすることが難しかったり、メールの方が利用しやすいのではと考えられますが、文面からは具体的なことがわからず、的確な回答が出来ていないのではないかと思います。必ず電話相談を案内し、つながることもあります。

常設電話相談18年目も、相談員一同、頑張ります。

### 性別

男性：648人  
 女性：136人

### 相談内容

感染不安 あり：626人 なし：36人  
 思い当たること 性行為：515人 体液・傷口：93人 不明：36人

自覚症状あり：130人 抗体検査に関する問い合わせ：140人  
 HIVについての問い合わせ：475人 STDについての問い合わせ：17人

## NGO指導者研修

2月27日と28日の二日間、東京で行われた予防財団主催の「NGO指導者研修会」に参加しました。

今回の研修は「エイズ対策の推進の支援」、人と人との繋がりの場を提供する「ネットワークのハブ化」、「予防ケア・エイズの取り組みについて情報発信」が目的にあるとのことでした。

研修を始める前に、事前アンケートへの記入があり、参加する目的や目標を具体的に設定し、研修終了後には事後アンケートにより、達成できたかどうかの振り返りを行いました。

研修内容は、ひたすら聞くだけのお堅いものではなく、質問や課題をどんどん投げかける実践形式で進められました。グループが生まれ、皆で話し合って発表する機会が多く、頻りに意見のキャッチボールが行われました。そこには、ただ情報を得るだけの受身ではなく、お互いに活発に意見と意見をぶつけ合う場で、異なる団体同士が課題を1つ1つ話し合った末、新鮮な情報に変換し共有できたように思えます。

まず、1日目の午前中は、国立国際医療センターエイズ治療・開発センターの西島健先生による「HIVの疫学と治療について」の講義が行われました。話しぶりと人柄がとても穏やかで、きちんと伝えようという姿勢をお持ちの方でした。分かりやすい言葉を選んでお話して下さったので、一貫して非常に聞きやすかったです。参加メンバーの構成を把握するため、「HIV/AIDSって知ってますか?」、「HIV感染者の方と接したことがありますか?」といういくつかの質問から始まりました。

内容は、HIV/AIDSについて、病気の歴史、世界の動向、薬についてなど、基本的なことから順を追って説明があり、医療現場での課題・現状、そして、予防が大切ということを特に強調して話されました。現在、治療は「Hit Early and Hard」(＝早期にしっかり)の傾向にあり、治療はよくなっているが、ウイルスが体の中にいたら、何かしら体に悪さをするだろうと考えられているため、今後感染がわかったら、以前より治療開始が早くなるのではないかとおっしゃっていました。治療においては、最初の薬の組合せでウイルスをしっかり押さえ込むことが肝心で、1番最初の治療を成功させることがとても大事であるとのことでした。

お昼を挟んで午後は、シェア(国際保健協力市民の会)の青木美由紀さんによる、自分たちの団体を見直す「活動の振り返り」のグループワークが行われました。青木さんは赤ちゃんがいる大きなお腹を抱えていらっしゃいましたが、最後までパワフルにお話して下さいました。

始めに、「お互い初めまして」の自己紹介。いくつ

になっても自己紹介は苦手です…。

そこで初めて、パンフレットなどでいつも目にしていた団体との一致ができました。

活動内容や組織をよく知らなくても、参加者のキャラクターによって、今までは書面でしか知ることができなかった他団体と繋がりを感しました。

2年前に同じ内容の研修を受けた方が、研修後の取り組みについて発表されました。最初、団体内で話し合うのは簡単だと思っていたけど、実際に話し始めると、ものすごく時間がかかって大変な作業だったそうです。数日かけて話し合った末に、自分たちの団体について出たことは、文章にするとほんの2行程度にしかならなかったけども、話し合いをしたことに意義があって、大変だったけど楽しくて嬉しい体験だったとのことでした。

そもそも「団体」とは、メンバーが2人以上いて、理念や価値に対して「同じことをしよう!」とお互いの合意が必要であるからこそ、何事を決めるのも大変なんだと思いました。

話の後に4、5人ずつのグループに分けられました。事前に、準備シートにて団体の「理念」(実現したいこと。具体的に社会や地域がどのようになることを目指しているのか)、「使命」(組織の役割や存在意義。一人ではなく、複数で立ち上げた理由。理念を達成するために、誰に対して、どのような問題に、どのように取り組んでいるか)、「価値」(行動の判断基準。何を大切にしながら達成していくのか)を書いており、チーム内で発表し合い、分からないところを聞いていきました。

実は、どうしても理念以外のこともやってしまいがちのようで、例えば、収入が得られることを優先させることで、元々やりたかったことができなくなったりしがちなため、常に理念に戻ることが大事と言っていました。

団体は衰退もあれば、メンバーの移り変わりもあって、生き物のようだ。その中でも、組織のスピリットをどう存続させるか、抽象的な活動や表現ではなく、外へ明確化させることがとても大変なため、誰かが音頭をとることが必要とのことでした。

また、一緒にいるメンバーでも、実は共通部分が少なかったり、メンバー編成の変化もあって、共有できてない部分もあるため、定期的に話し合う機会を設けるなどして、再確認することが大事だそうです。

2日目はまる1日使って、富士通でバリバリ働いてらっしゃる中浜洋二さんが、企業で実践されている「マーケティング」の手法をベースにした、資金調達ノウハウを教えてくださいました。

話の中に、聞いたことのない「PEST分析」、「ベンチマーク」といった業界用語が頻りに出てきたので、

まるで、どこかの企業セミナーに参加しているような気分でした。研修で私たちに習得してもらいたいが、情報収集する癖を付けることと、なんとなくではなくきちんとデジタル化したデータを基に立案することでした。

研修後、自分たちの団体で資金調達を効果的かつ効率的に行うために、企業ではなく、私たちNPOにおける資金調達のための、6つプロセスを教えてくださいました。

具体的に、①現状分析では、青木さんの研修と同じく、とにかく自分の団体のことまずよく知ること。組織の沿革や体制、ミッション・目的・目標など。それから、団体を取り巻く利害関係の構図を頭に入れることや共通の活動をする団体との比較を行いました。

②市場の細分化(セグメンテーション)は、市場を何かの判断基準で仕切りを設けて、市場を細かく分けましょうということでした。

③ターゲットを決める(ターゲティング)では、手当たりしだいではなく、ターゲットを選ぶ基準や資金調達のアプローチ方法の考え方を教えてもらいました。

④他者との差別化を図る(ポジショニング)では、他団体と比べたときの位置づけ方として、長浜さんから例題が出されました。「アイドルグループSMAPに、6人目を入れるとしたら？」に対して、グループに大きな模造紙が渡され、検討し発表しました。



⑤支援プログラムの策定では、支援者が団体の活動やイベントなどの体験を通して、「役立つんだ！」「いいことしてるんだ！」というような自分の関わりの価値を実感してもらえるプログラムを考えること。

⑥効果測定では、結果が良くも悪くも、必ず振り返り次に活かすことが大事。その中で、PLAN(計画)→DO(実施・実行)→CHECK(点検・評価)→ACTION(処理・改善)の頭文字を取ったPDCAというサイクルの実践を教えてくださいました。

以上の6つのプログラムに沿って、自分たちの団体を洗い出し、グループで発表しながら、抜けや漏れがないか突合せをしていきました。

最後に、今回この研修に参加して、自分が大きく実感したことは、恥ずかしながらあまりにも自団体のことを知らないということでした。他団体との交流が多くありましたが、規模や立場、団体への関わり方に違いはあれども、参加者のほとんどが、所属や活動に対する責任感や意義を、大なり小なりきちんと持っていていっしょにいました。改めて、資金調達の講義で学んだように、他を知ること、比較することで、自団体への関わり方や団体自体を再度見つめ直そうと思いました。(H.K)

## 電話相談における精神疾患の基礎知識勉強会報告

3月28日AWF事務所で精神科医師小楠さんを招いて勉強会を行った。

研修は小楠さんが、日ごろ患者さんとどのように向き合って診療されているかという話から始まった。お話の様子から、精神科で、1日40人の患者さんの診療に追われながらも、一人ひとりの患者さんに対して、落ち着いた口調で話され、丁寧に話を聞かれている様子が想像できた。私たちも電話相談の場面で、病的な感染不安を持つ人たちと、どう向き合えばいいか、考えるきっかけができた。

HIVの電話相談でも、様々な精神的な問題を抱える人たちへの対応に、苦慮するケースが多々ある。どんな電話相談であってもその動機は、誰にも相談できないことを、誰かに聞いて欲しい、相談したいという衝動に駆られて電話をかけるにいたるわけで、程度の差はあっても、不安や悩みはつきものである。感染に対する不安感が持続することで精神的に病んでいく症状はエイズノイ

ローゼと言われているが、感染を不安に思うあまり、ちょっとした体調の変化を全て、HIVの感染と関連付け、HIVに感染していることは間違いない事実であると信じ込んで疑わない、一日中そのことばかりを考えてしまう。

一般の精神科ではこのような症例はそれほど多くなく、電話相談で問題となっているエイズノイローゼのようなケースは稀だということであった。

電話という媒体を使っただけの相談の持つ困難さは、相手の姿が見えないことから、対面であれば得られる表情、動作、風貌などのノンバーバルな情報が得られないことであろう。

電話相談は、ほとんどが一回きりの、そのとき限りのやり取りである。また、こちらからクライアントに連絡を取ることは出来ない。限られた時間の中で、正確な情報を伝えるとともに、まずは電話をかけてきてくれたことに対する相談者の労苦をねぎらう。そして、今より以上、不安を大

きくしないように、その不安や悩みを取り除くことはできないかもしれないが、話を聞くことで少しでも楽になれたと感じてもらえれば幸いだと思わなければならない。



心療内科と精神科の違いは、心療内科は心因的な原因による体の不調を治療するのを目的にしているのに対して、精神科はさまざまな精神疾患を直接的に治療するのを目的にしている。そのため、身体的な不調に対して、まず心療内科のクリニックを受診する人が増えたが、精神科へ受診できないケースが増えている。

では、どのような場合精神科に繋げる必要があるかという、妄想的な症状があるかどうか、統合失調症の疑いがある場合、うつ状態が続いてい

る、不眠、食欲不振、通常 of 社会生活が出来ない、自殺念慮があるなどの場合は精神科の受診を勧めたほうが良いとのことであった。

最後に小楠さんの話を聞きながら、電話相談員がそれぞれの事例を持ち寄って、もっと積極的に事例検討会を開くことの必要性を感じた。情報を共有して、互いに練磨しあうような研修会や検討会を続けていければと思う。

また、自分たちがバーンアウトしないように相談員同士、お互いを支えあっていく姿勢を大切にしたい。クライアントに寄り添い、悩みや不安の状態から少しでもプラスの方向へ向かうことを支援する、電話相談の本来の目的を思い出すことができた貴重な時間であった。

小楠さんありがとうございます。そしてこれからもよろしくお願いします。(よ)

## 陽性者支援についての勉強会報告

3月7日、CHARM(※1)の岳中さんを講師にお迎えして、AIDS/HIV 陽性者支援についてのお話を伺いました。岳中さんは現在、サポートプロジェクト関西(※2)で開催されている「ひよっこクラブ」の事務局担当・講師をなさっています。

「ひよっこクラブ」というのは、ポジティブとわかって間もない人のための、全3回隔週で開かれる少人数制のグループミーティングです。AWFも、今後更に陽性者支援に力を入れていく必要があるので、現在どのように支援をしているのかという具体的なお話を伺いました。

一方通行で話を聴くというのではなく、参加者からの質問に答えるという形で勉強会でした。

「ひよっこクラブ」を開催するに至るまでのお話、ミーティングの内容、どのような相談が多いか、問題点や予算についても、かなり細かいところまでお話を伺いました。

以下、印象的だった点を挙げます。

まず、陽性とわかってから拠点病院では相談できるが、地域に戻ると相談する場がなくなるという問題を解消するため「ひよっこクラブ」開催に至ったわけですが、東京・大阪にあるこうした支援団体を地方で機能させていくためにはどうすればいいのかというお話。

地域のサポート団体と拠点病院の連携が不可欠という結論ですが、これが一番難しい問題です。

岳中さんもお自身が病院内でスタッフとして関わっていたので現在も病院と密接な関係保つことが出来るとのことでしたし、現在の「ひよっこ

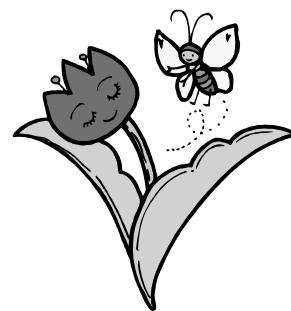
クラブ」参加者は病院からの紹介者が殆どだそうです。難しいですが、例えば病院全体としては無理でもスタッフとの個人的つながり、行政側の担当者との連携が継続的に取れるような体制を整えることができれば可能だと思います。

現在AWFでも実践されていることですが、中心となる人に負担がかかるという点の解消、すなわち人材の充実が必要だと改めて感じました。

次に、活動から見た陽性者の状況というお話では、インターネットの普及の影響が大きいということ。

情報が得やすくなった反面、情報格差が広がる点と、情報に振り回されることもあるというお話。これはもう常に感じていることで、AWFの電話相談に電話をかけてくる人の大半がインターネットを見てというものですし、インターネット上の情報を読んだり見たりした挙句かえって不安を募らせて電話してきたりしています。

ただ、パソコンや携帯が普及したといっても、持っていないかたりアクセスできない人もいるわ



けで、そういう人の為に病院側からの情報提供が必要で、しかし、この点についてはまだ不十分であり、関わった病院により運の良さ悪さがあることに加え、周りにカミングアウトできないということは20年前からあまり変わらない状況だというお話でした。

今回、私自身は余り質問しませんでした。それは他のスタッフが聞きたい事を先に聞いてくれたことでもあります。岳中さんが陽性者支援に関わるまでのお話が、私がこれまでの活動や勉強会

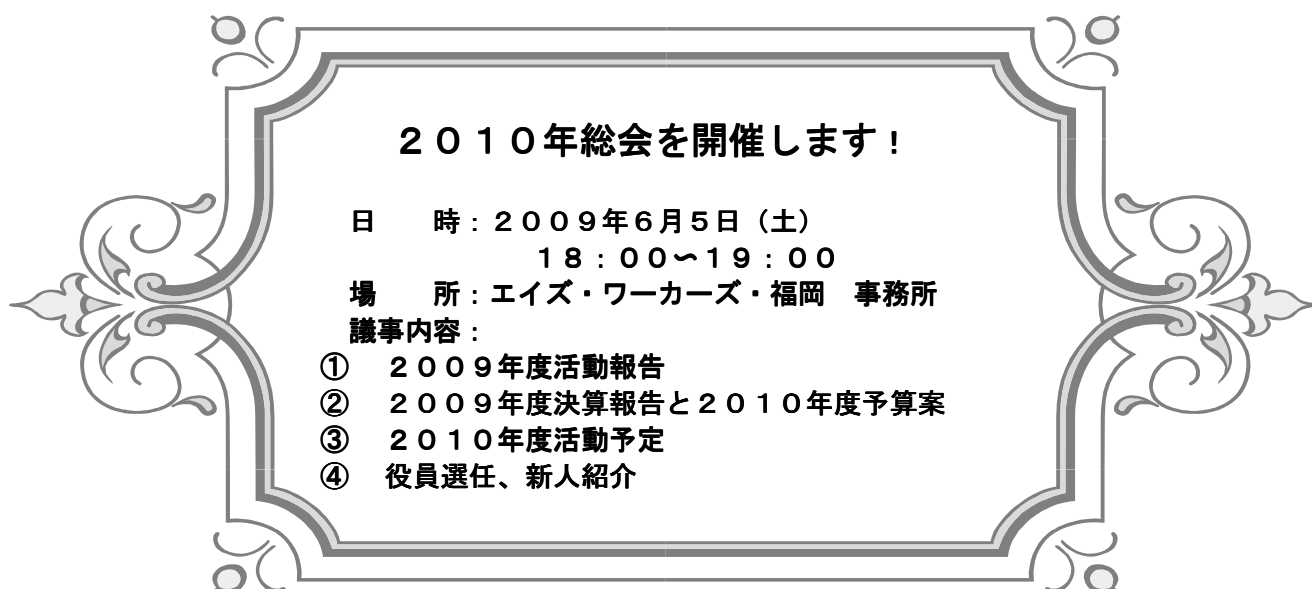
を通して得てきた体験や知識の、更に詳しい総集編のようだったからです。お話の内容一つ一つにうなずき納得する自分がいました。

岳中さんも、私たちの質問が具体的かつ核心をつくものが多かったの逆で勉強になったとおっしゃっていただきましたが、どんな質問にも躊躇うことなくお答えくださったことに感謝しています。どうもありがとうございました。

(七)

※1 大阪で「HIVを含む感染症と結核の分野で日本社会のシステムから孤立しまいがちな外国籍住民などのサポート団体」-CHARMのHPより

※2 厚生労働省エイズ予防のための戦略研究(研究リーダー市川誠一) MSM 京阪神グループにより運営されてる- サポート関西HPより



**2010年総会を開催します!**

日 時: 2009年6月5日(土)  
18:00~19:00

場 所: エイズ・ワーカーズ・福岡 事務所

議事内容:

- ① 2009年度活動報告
- ② 2009年度決算報告と2010年度予算案
- ③ 2010年度活動予定
- ④ 役員選任、新人紹介

### ボランティア募集中

エイズ・ワーカーズ・福岡では常時ボランティアを募集しています。HIV/AIDSに関心のある方なら誰でも当会の活動に参加できます。特に最近仕事が増えつつあるにも関わらず、ボランティアの数が伸び悩んでいます。定期的に来ていただけるだけでも大変助かります。ご連絡お待ちしております。

### AWF 常設エイズ電話相談

092-715-1324  
日本語 火・木 19:00~21:00  
土 14:00~18:00  
092-715-8395  
English TUE 19:00~21:00

### ~~ケアサポート~~

「エイズ・ワーカーズ・福岡」ではPWA/Hや、その家族、友人が自分らしく生活を続けていくために、日常生活におけるさまざまな相談にのったり、生活上のサポートを行ったりしています。ケアサポートを必要とされる方がいらっしゃいましたら、ご遠慮なく事務局までご相談下さい